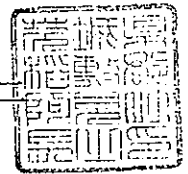




阿 建 第 244号
平成20年10月24日

国土交通省道路局長 殿

阿見町長 川田 弘



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記
の件につきまして、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

茨城県稲敷郡阿見町

地方においての道路整備は、地域の医療・福祉・環境・観光・産業等の各関係施策に必要不可欠な要因となっており、生活道路のネットワークの整備が最も必要であります。

しかし、地方の財政は逼迫し、真に必要な道路についても改良できない状況です。

平成19年3月に圏央道が開通し、インター周辺においては商業・業務などの企業が進出しやすくなったことにより、一般車両以外にも大型車両等の交通量が増加していることから安全性の向上と、圏央道の整備効果を最大限に発揮できるよう、アクセス道路の早期整備を要望いたします。また、暫定供用している主要幹線道路等については、適切な維持管理を行うと共に、引き続き本格供用に向けての整備を要望いたします。

②－1地域の現状と抱える課題

茨城県稲敷郡阿見町

○現状

阿見町の道路状況については、町の東西を首都圏中央連絡自動車道が通過しており、牛久阿見ICと阿見東ICの2つのインターチェンジが平成18年度に供用開始されたことから利便性が大幅に向上し、その効果で阿見東IC周辺には大型商業施設であるアウトレットモールの進出が決定するなど、地域の発展に大きな期待が寄せられている。また、地域のまちづくりの一環として進めてきた都市計画道路事業や土地区画整理事業等の整備によって都市基盤の構築を図っており、今後も更なる地域の活性化を推進するために、国庫補助事業を活用した新たな事業を展開していく計画である。

○課題

圏央道が供用開始になったことや、地域における都市施設等の整備より利便性が向上した一方で、圏央道のアクセス道路を中心とした主要幹線道路や、地域における生活幹線道路が未整備であることから、広域的な道路ネットワークが確立されていない状況であり、その影響で集落内を通過する狭小な既存道路での様々な交通問題が発生している。

このような状況の中で、平成21年度にはアウトレットモールがオープンするなど、今後急激な交通量の増加が見込まれており、渋滞問題や安全性の強化などの交通対策が早急に求められている。

これらの課題に対応していくためには広域的道路ネットワークの構築が急務であるが、必要となる道路としては町道である「都市計画道路荒川沖・寺子線」、県道では「土浦竜ヶ崎線バイパス」「土浦稲敷線バイパス」が考えられ、都市計画道路荒川沖・寺子線については平成21年度からまちづくり交付金を活用して整備していく計画である。

また、現在の圏央道については暫定2車線での供用となっているが、アウトレットモールのオープンに伴う交通量の増加によって交通渋滞や交通事故が多発することが予想されるため、完成形となる4車線化の整備についても早期の検討が必要と考えられる。

今後、地域の実情に合わせた利便性、安全性、快適性などの総合的な道路機能の向上による地域づくりを推進していくことが行政の大きな役割であるが、これらを推進していくためには財源の確保が重要であり、国庫補助金等の道路財源の確保と、実情にあった適正な地方への配分が必要不可欠である。

様式④

茨城県稲敷郡阿見町

○重要事項 ①地域活力の向上 ②交通安全	○代表事例 土地区画整理事業 (阿見吉原東) 主要地方道3路線バイパス整備事業 (土浦・竜ヶ崎線バイパス) (竜ヶ崎・阿見線バイパス) (土浦・稲敷線バイパス) 都市計画道路荒川沖・寺子線 (町道7650号線)	○期待する効果や評価等 ①圏央道の利用促進 ②利用者に対するサービス向上 ③産業振興や雇用促進 ①歩道整備 ②生活基盤道路及び物流路線の確保 ③交差点改良に伴う交通安全対策 ④道路ネットワークの整備 ⑤通学路の整備	○その他
--	---	---	-------------